



アートでつなぐ地域と観光 —武雄で、みる・ふれる・しる—

佐賀大学芸術地域デザイン学部
武雄FW

概要

01

プロジェクトの背景

02

活動報告

03

各班発表

04

まとめ

01

プロジェクトの背景

全体の方針

アートを用いた文化的体験による 新たな観光資源の発掘、発信

- ・ ・ ・ ・ 今回の武雄FWでの「アート」の定義 ・ ・ ・ ・
「地域に根ざした文化や地域の特色を
『視覚、触覚、知覚』で
触れる体験を通して、心の豊かさを育むこと」とする。

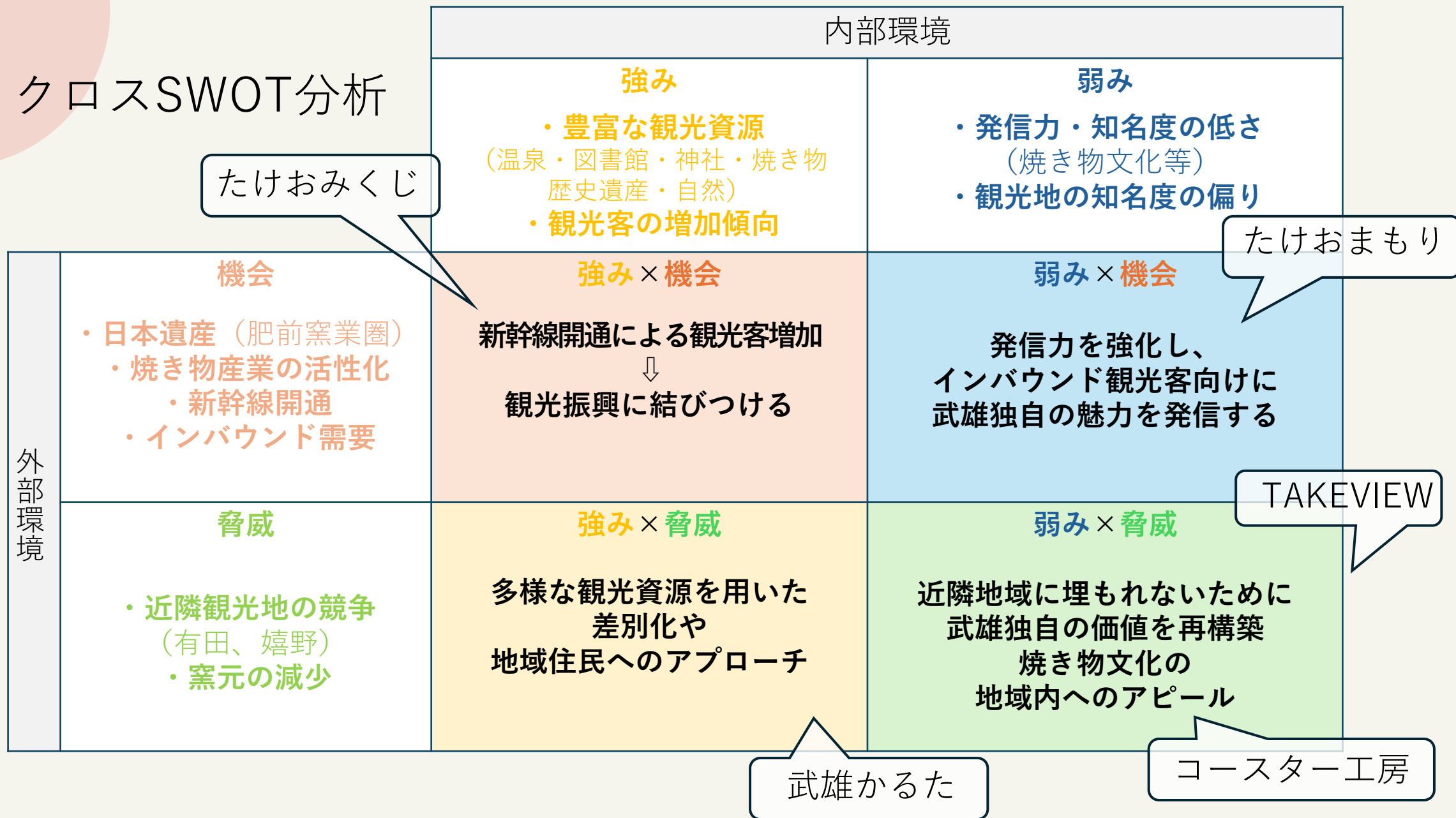
なぜ「アート×観光」なのか？

年齢性別に関係なく参加可能な「アート」を用いて、
武雄市内外に関わらずより多くの人が武雄の魅力について知るきっかけを
提供することにより、
武雄への関心の高まりを促し、ひいては新たな体験価値の創出を目指す。

なぜ「体験」なのか？

「武雄」×「視覚、触覚、知覚」をクロスオーバーさせることで
人の感覚に働きかけ、より人の心をワクワクさせる体験を生み出すため。

クロスSWOT分析



02

活動報告

【前期の活動】

- ・ 武雄視察（4月）
- ・ イベント企画提案の話し合い（5～6月）
- ・ 武雄市役所において中間報告会（7月）



【武雄セラ&アートフェス】 10月12日・13日

参加グループ：たけびーす



【わくわくキッズフェス】10月19日

参加グループ：かけらのしずく・武雄のはぐるま
・鬼に金棒、俺らに武雄。



【おみくじ】 11月12日～11月19日

参加グループ：そいぎ



【成果展】 12月5日～7日



武雄市公募美術展覧会

フィールドワーク

『武雄FW成果発表展』

武雄市 × 佐賀大学芸術地域デザイン学部
連携協定事業

かけらのしずく たけびーす 鬼に金棒、俺らに武雄。 そいぎ 武雄のはぐるま

日時

2025 12.5 Fri → 7 Sun

10:00-17:00

※7日のみ16:00まで

場所

北方スポーツセンター

問い合わせ 佐賀大学総務課 0952-28-8113



【ワークショップ in 武内公民館】 1月21日

かるた大会 コースター制作

参加グループ：鬼に金棒、俺らに武雄。かけらのしずく



03

各班発表



子どもたちの記憶に残る武雄焼体験 ～文化の担い手を育てる共創～

チーム名： かけらのしずく

かけらのしずくコースター工房

活動内容

武雄焼の陶片を用いたコースター制作ワークショップ
自由にかけらを選んでレジンで固め、絵の具やパーツで
デコレーションして完成。

一時間半で完売、15人ほど参加。制作物は持ち帰り形式。
(完売理由予想：陶片やレジンを扱うのは非日常的な体験。)



関係者の方々

行政、武雄市住民、幼稚園の子供たち

場所

武雄市内 ケーブルワンスポーツパーク
武雄市内 武内公民館



かけらのしずくコースター工房

アートの役割

かけら選びやデコレーションなど、参加者が手を動かし
思いのままに制作することで、一人一人との対話を生み、
文化体験の時間が充実した。

ユニークな表現が可能となることで、オリジナルコースター
として武雄焼との新しい関わり方を提供した。

共に生まれたもの

武雄焼のかけらを用いたオリジナルコースター
子どもたちにとっての武雄焼との初接触
ワークショップを通じた文化体験の思い出



かけらのしずく コースター工房

- 今回のコースター制作は、武雄焼を視覚・触覚によって観察する特殊な体験となった。
地域の工芸品の再解釈を行い、参加者が独自の武雄の表現を追求する機会を提供した。
- 文化体験の時間を思い出として家庭に持ち帰り、
コースターという形で日常に落とし込む機会の提供により、
地域内への焼き物文化のアピールを行った。
- 武雄の未来を担う次世代の子供たちが、このイベントをきっかけとして
武雄焼に興味をもつことで、文化の担い手育成の第一歩となると考える。



武雄焼の陶片活用による 場づくり型地域共創

チーム名： たけびーす

企画 たけおまもり

活動内容

武雄セラ & アートフェス参加（2日間）
武雄焼の陶片を用いた
お守り型キーホルダー作成

関係者の方々

各窯元、武雄市、武雄市観光協会、
ワークショップ参加者

場所

武雄市各地（武雄温泉駅、武雄市役所）



たけおまもり

〈アート の役割〉

・表現

武雄焼の陶片を用いることで、新たな武雄焼の魅力を生み出した。

・ワークショップ

窯元・地域の人々・学生が集まる交流の場づくりとして機能。

また、お守りキーホルダー制作を通じて対話が生まれ、武雄市や武雄焼について自然に語り合う機会が生まれた。

武雄温泉駅前広場でのワークショップ実施により、県内だけでなく県外、海外からの観光客に対しても魅力を発信できた。



たけおまもり

〈活動と共に生まれたもの〉

1. 参加者それぞれが制作したオリジナルの陶片キーホルダーという「作品」
2. 制作体験を通じて得られた武雄焼への理解や認知という「体験」
3. 主催者と参加者という関係を超え、地域について共に考える仲間としての関係性
4. 立場や利害の違いを越えて、地域創生を自分ごととして捉える気づき

たけおまもり

- たけぴーすの活動は「何かを作ること」自体が目的ではなく、ワークショップに人が集まり、体験すること。
- 参加者で対話し武雄市、窯元、地域資源との関係づくりが育つ場を作った点に価値がある。
- アートを媒介として人と人、人と地域をつなぎ、「共につくり、共に考える地域共創の関係性」を実践的に生み出した取り組みだったと言える。



武雄かるたで創る、武雄の未来

チーム名： 鬼に金棒、俺らに武雄。

未来へつなぐ 俺らの武雄かるた

活動内容

主要内容：かるた制作

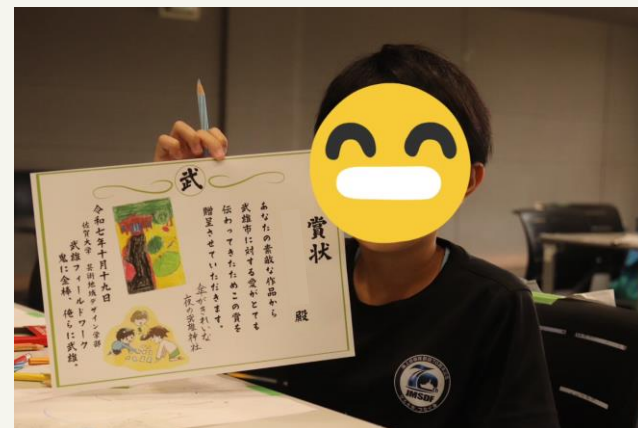
詳細：武雄市内でのかるた制作

読み札：市民の方からの公募

絵札：市の子どもたちが作成

展示

かるた大会



未来へつなぐ 俺らの武雄かるた

関係者の方々

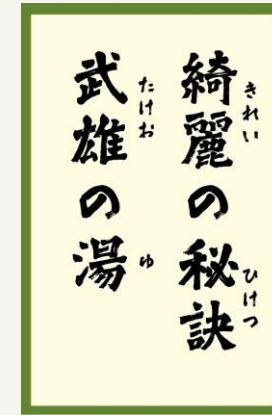
武雄市内外を問わない協力者の方々、市内の飲食店関係者、市の職員など

場所

武雄温泉駅、武雄温泉楼門、温泉街、ケーブルワンスポーツパーク、
北方スポーツセンター、武内町公民館

未来へつなぐ 俺らの武雄かるた

- 読み札作り→絵札制作→かるた大会という流れから、武雄の魅力を再発見するというシステムを考え、各手順でワークショップなどの場を創ることができた。
- かるたが我々の手を破られた後も遊ばれていく際に、「場」を作っていくことができる。



読み札公募から絵札制作、かるた大会を通して、
地域住民の方々に、武雄ならではの魅力を
再発見してもらうことができた



持続可能な地域共創に向けた関係づくり ～観光案内における偶然性の導入～

チーム名： そいぎ

たけおみくじ



活動内容

おみくじによる新たな観光案内

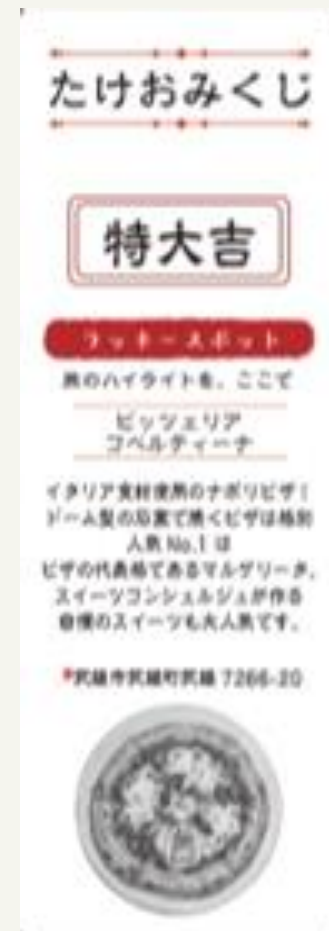
武雄市の特産物（大楠、温泉ゆずなど）をモチーフに、運勢と武雄の定番スポット から穴場までを紹介したおみくじを作成し、おみくじ箱を観光客が多い場所に設置することで、地域振興を促す。

関係者の方々

地域の人（店舗・施設の方、観光関係、地元住民）、観光客

場所

武雄市図書館、武雄温泉駅、武雄温泉楼門



たけおみくじ

アートの役割

- ・地域性を活かしたインパクトのあるフォルム
- ・おみくじのランダム性による、武雄の潜在的な魅力の発見

共に生まれたもの

- ・地域住民と観光客が、おみくじで紹介したスポットについて知る、訪れる、拡散するきっかけ
- ・おみくじをもとに生まれる、引いた人たち同士の会話の広がり



たけおみくじ

- 武雄の潜在的な魅力について知ってもらう・行ってもらう
 - 「こんな場所があったんだ」的発見
 - 武雄への愛着、再訪や宣伝を促す
 - 武雄市・店舗・施設との、武雄を知らない人との関係づくりにつながる
- おみくじという偶然性の高いかたち、そしてあえてユーザーが慣れていない方法で観光案内をすることで、会話や場を通した武雄の潜在的な魅力を発信
- 観光客が多い施設に設置することで、より多くの人に観光スポットへの関心・来訪の契機をつくる



絵描いて出会う TAKEVIEW

チーム名： 武雄のはぐるま

絵描いて出会うTAKEVIEW

活動内容

ワークショップで武雄市民の方々に
武雄のお気に入りの一角を描いてもらう
参加者の作品を通して自分たちも新たな武雄の魅力を知る
参加者にも武雄の魅力を再確認してもらう



関係者の方々

行政の皆様

わくわくキッズフェスに参加いただいた親子の皆様

場所

ケーブルワンスポーツパーク メインアリーナ

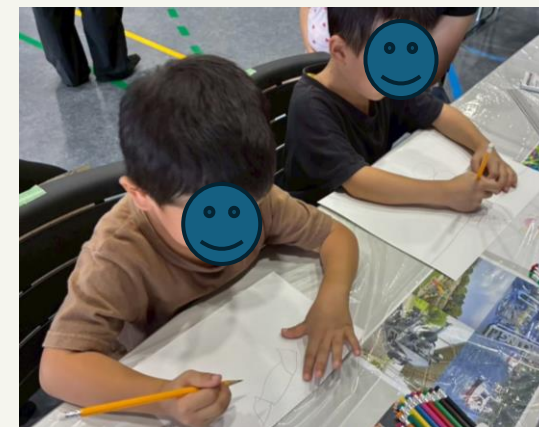


絵描いて出会うTAKEVIEW

○活動を通して生まれたもの
作品（自分の目に映る武雄を描いたもの）
気づき（再発見した武雄の魅力）
体験（自分たちの住む武雄市の魅力を再発見する）

○アート役割
文字や写真だけでは伝わらない自分に映る武雄を表現
→武雄の風景を自由に表現

絵を描く行為：思い出や感じたことを自由に表現している



絵描いて出会う TAKEVIEW

○自分の住む武雄市の当たり前と感じている風景の再解釈をすることにより、他者に伝えられる魅力として再構築するきっかけづくりとなる

○ワークショップを通し「自分の中の武雄の魅力」について考える

→それを技術に関わらず、温もりのあるイラストとして0から描くことでそれぞれの解釈を可視化できる

→武雄の魅力を再認識してもらう

04

まとめ

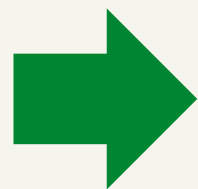
かけらのしずく コースター工房

○地域の工芸品の再解釈、自分独自の武雄の表現を追求・コースター制作によって再構築。

武雄焼を視覚・触覚によって観察する特殊な体験。

○文化体験の時間を思い出として家庭に持ち帰り、コースターという形で日常に落とし込む。

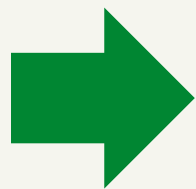
○武雄の未来を担う次世代の子供たちが、このイベントをきっかけとして武雄焼に興味をもつことで、文化の担い手育成の第一歩となると考える。



意味づくり型の地域共創

たけおまもり

- たけぴーすの活動は「何かを作ること」自体が目的ではなく、ワークショップに人が集まり、体験すること。
- 参加者で対話し武雄市、窯元、地域資源との関係づくりが育つ場を作った点に価値がある。



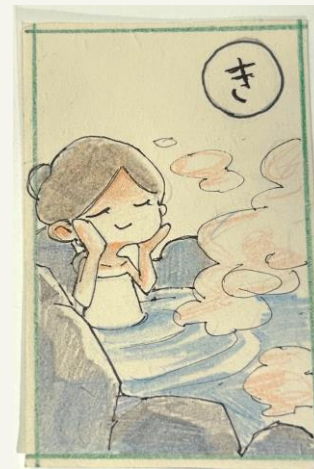
場づくり型の地域共創



未来へつなぐ 俺らの武雄かるた

○読み札作り→絵札制作→かるた大会という流れから、
武雄の魅力を再発見するというシステムを考え、
各手順でワークショップなどの場を創ることができた。

○かるたが我々の手を破られた後も遊ばれていく際に、
「場」を作っていくことができる。



 **気づきを与える場づくり型**の地域共創

たけおみくじ

- 武雄の潜在的な魅力について知ってもらう・行ってもらう
 - 「こんな場所があったんだ」的発見
 - 武雄への愛着、再訪や宣伝を促す
 - 武雄市・店舗・施設との、武雄を知らない人との関係づくりにつながる
- おみくじという偶然性の高いかたち、そしてあえてユーザーが慣れていない方法で観光案内をすることで、会話や場を通した武雄の潜在的な魅力を発信



関係づくり型の地域共創



絵描いて出会うTAKEVIEW

- 自分の住む武雄市の当たり前と感じている風景の再解釈をすることにより、他者に伝えられる魅力として再構築するきっかけづくりとなる。
- ワークショップを通し「自分の中の武雄の魅力」について考えさせる
 - 武雄の魅力の再認識をしてもらう
 - それを技術に関わらず、温もりのあるイラストとして0から描くことでそれぞれの解釈を可視化できるから



再発見づくり型の地域共創

全体の方針

アートを用いた文化的体験による
新たな観光資源の発掘、発信

かけらのしずく
武雄焼をを活用したコースター

意味作り型の地域共創

鬼に金棒、俺らに武雄。
武雄の歴史、文化を学ぶかるた作り

気づきを与える場作り型の地域共創

たけびーす
武雄焼を活用したお守りキーホルダー作り

場作り型の地域共創

そいぎ
武雄の周遊を促すおみくじ配布

関係づくり型の地域共創

武雄のはぐるま
武雄の魅力再発見のための機会の提供

再発見作り型の地域共創

【SNS発信】Instagram投稿

4月～現在

今年度の特徴：全体的な閲覧数の増加
過去最高の閲覧数を記録

投稿の平均閲覧数
1000以上UP!

最高閲覧数
約2.5万UP!



2024年度



2025年度



2024年度



2025年度

【SNS発信】Instagram

リール

最高閲覧数：8.4万回

(2026/1/9現在)

「佐大生で武雄の観光地を
回ってみた」

